

I 公1：見本市・展示会事業

1 主催・共催事業

(1) 例年、西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与することを目的に、国や地域の行政機関等の施策や方針との連携を図りながら、各種の見本市・展示会等を企画・開催しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」という。）の影響により、主催・共催事業のほとんどがオンライン開催、あるいは開催中止とすることとなった。その中で西日本陶磁器フェスタについては、感染対策を万全に講じた上で開催した。

◆当協会が主催・共催した主な見本市・展示会 () 内は令和元年度実績

事業名	開催期日	入場者数	出展社数
西日本製造技術イノベーション2020	6月17日～19日 (コロナ禍で中止)	中止 (31,672)	中止(66)
第46回ふくおか産業技術振興展			中止(19)
第42回西日本陶磁器フェスタ	9月18日～22日	30,765人 (56,379)	149社(230)
エコテック/2020オンライン見本市 ～地球環境ソリューション展～	10月6日～2月26日 (オンライン開催)	4,200ビュー	37社・団体(54)
エコテック/2020オンライン見本市 ～エネルギー先端技術展～		(28,120)	49社・団体(86)
中小企業テクノフェア in 九州2020 オンライン展示会	10月19日～2月26日 (オンライン開催)	3,755ビュー	30社・団体(51)
P.P.C.2020 オンライン 第22回西日本国際福祉機器展 Web	10月15日～2月12日 (オンライン開催)	22,342ビュー (18,611)	119社・団体(141)
合計	開催1事業 オンライン3事業 (8事業)	30,765人 30,297ビュー (134,782人)	開催149社・団体 オンライン235社・団体 (647)



第42回西日本陶磁器フェスタ



感染症対策(検温)



エコテックオンライン

【外部環境が変化中での展示会開催に向けた主な取り組み】

ア オンライン展示会の開発と陶磁器フェスタのリアル開催

新型コロナ感染拡大の状況を受け、対面を基本とした展示会の多くが中止となったが、地域経済交流の仲介役としての展示会の役割を維持すべく、オンラインを活用した展示会の開催等を行った。また、感染状況が一時的に小康状態になった時期に、西日本陶磁器フェスタをリアルで開催した。

○ 西日本製造技術イノベーションの開催中止

当初、前年度を上回る出展申し込みが集まっていたが、新型コロナの感染拡大により、出展見合わせが相次いだことなどにより、4月に開催中止を決定した。

○ 西日本陶磁器フェスタのコロナ禍における開催

全国の展示会の中止される中で、新型コロナの感染状況が小康状態となった時期に開催した。(一社)日本展示会協会「展示会業界におけるCOVID-19感染対策ガイドライン」に準拠した感染症対策を徹底し、人気の飲食系イベント企画を見直すなど、来場者及び出展者の安全・安心を最優先にした結果、無事に会期を終えることができた。開催期間中には、西日本総合展示場の会場利用者や各地の展示会主催者が視察に訪れ、コロナ禍における大型イベント開催のモデルケースを示すことができた。

○ 主催・共催事業のオンライン化の取り組み

新型コロナの感染拡大により、各事業ともに対面を基本とした展示会の開催が困難な状況になった。そのため、リアルの対面をとまなわれない、オンラインでの展示会開催を企画・実施した。「エコテック」では、オンライン上に『展示・セミナー・海外向けプレゼン』の3つのコーナーを設け、また「西日本国際福祉機器展」では、オンラインセミナーの開催や出展企業を業種やニーズに分類して紹介するなどの工夫を行った。

イ 成果のあがる展示会の構築（継続的マッチング支援）

コロナ禍のため、リアルの対面によるマッチングが行えない状況にあったが、オンラインでも出展社とユーザーとのコミュニケーションがスムーズに行えるよう、きめ細やかな支援を行うことでマッチングの成果創出に尽力した。

○ 製造技術マッチングフェア（商談会）

展示会を介した地域中小企業の販路拡大支援として、(公財)福岡県中小企業振興センターの協力を得てオンライン商談会「製造技術マッチングWEEK」を開催した。



オンライン商談会

○ 中小企業テクノフェア in 九州2020 ビジネスマッチング事業

産業コーディネータ集団「NPO法人北九州テクノサポート」と連携し、マッチングの件数と質の向上を目指した取り組みを行った。令和2年度はオンラインでのシーズ説明会を開催し、ビジネスマッチングを実施した。

(2) 主催・共催事業と並行して関連するセミナー、シンポジウムを開催した。
(28テーマ、参加者数2,193人)

2 関係団体との連携事業

(1) 主催事業における産学官連携

主催事業のうち、産業技術分野の展示会では、国、福岡県、北九州市や大学、関係団体、研究機関等と連携し、効果的な事業推進を図った。

(2) 国際化の推進

ア 韓国BEXCO（釜山国際展示場）とのMOU事業

MOUを締結しているBEXCOと良質な友好関係を構築してきたが、コロナ禍によって、相互の交流が難しくなる中、オンラインを通じて、展示会の再開に向けての国際MICE動向や相互の展示会の状況について情報を共有した。

イ 展示会の国際化

コロナ禍につき、海外との往来ができない中、オンラインを活用した海外との取引拡大の機会を提供することに注力した。
(エコテックにおける商談件数16件、動画再生回数1,630回)

(3) 新たな価値創造を目指した見本市運営

人と人との接触機会の低減が求められる中で、オンラインと商談などのリアルな面談が重要視される部分を組み合わせ合わせたハイブリッド型の展示会の開催手法について、検討を進めた。

また、見本市・展示会運営の将来を担う若手担当者のスキルアップを図るため、九州で公的な展示会を主催する団体と協同で「開催に向けたノウハウに関する発表会」を開催した。

Ⅱ 公 1 : 会議・大会等

1 誘致・支援事業

(1) 北九州市では、日本政府観光局(JNTO)の企画事業への積極的な参加による連携強化や、地元及び首都圏等の学会・大会等のキーパーソンとのネットワークの深化・拡大への取り組みを進め、グローバルMICE推進協議会との連携による海外セールス、商談会への参加等を行い、積極的な誘致活動を推進した。JNTO発表の2019年の国際会議開催件数は3年連続全国8位と好成績を収めることができたが、今後しばらくはオンライン、もしくはハイブリッド開催の会議の増加も見込まれ、会議開催件数がコロナ前の数値に戻るには時間を要すると思われる。

国際規模をはじめとする学会・大会等の誘致に取り組んだ結果、令和2年度の開催状況は、69件となった。また、これらの誘致活動および開催助成金の効果的な活用の成果として、令和3年度以降に合計166件(令和3年3月31日現在)のコンベンションが予定されている。

なお、観光庁作成の「MICE開催による経済波及効果測定モデル」によれば、令和2年度の当協会が誘致し開催した案件による経済波及効果(間接2次波及効果、雇用効果を含む)の推計値は14億294万円であった。

◆ 年度別開催件数の推移 (単位: 件)

区分	国際	全国	その他	合計
R2年度	0	30	39	69
R1年度	127	73	116	316
H30年度	114	80	87	281

◆ 年度別参加者数の推移 (単位: 人)

区分	国際	全国	その他	合計
R2年度	0	12,077	5,088	17,165
R1年度	72,088	75,745	50,288	198,121
H30年度	86,372	69,256	40,913	196,541

◆ 令和2年度開催の主な会議・大会

規模	名称	開催時期	会場	参加人数 (オンライン(外数))	海外オンライン 参加国数
全国	The 2nd Annual Congress of Asia Society of Hip Arthroscopy & Preservation (アジア股関節学会 2020)	R2年4月	北九州国際会議場	120人 (230人)	8ヶ国
	International Conference on Activity and Behavior Computing (ABC)	R2年8月	北九州国際会議場	120人 (400人)	2カ国
	International Conference on Informatics, Electronics and Vision (ICIEV), International Conference on Imaging, Vision and Pattern Recognition (IVPR)	R2年8月	北九州国際会議場	120人 (400人)	2カ国
	第46回日本骨折治療学会	R2年9月	AIM3 階	180人 (3,820人)	
	IEA/AIE 2020 (The 33rd International Conference on Industrial, Engineering & Other Application of Applied Intelligent Systems)	R2年9月	北九州国際会議場	136人 (352人)	15カ国
	SOMET2020(The 19th International Conference on New Software Methodologies, Tools and Techniques)	R2年9月	北九州国際会議場	105人 (264人)	10カ国
	日本医用画像情報学会 秋季(第188回)大会	R2年10月	九州工業大学 戸畑キャンパス	126人 (36人)	
	バイオメディカル・ファジィ・システム学会 2020年度年次大会	R2年10月	九州工業大学 戸畑キャンパス	236人 (100人)	
	第30回日本耳科学会総会・学術講演会	R2年11月	西日本総合展示場新館 北九州国際会議場	1,500人 (700人)	2カ国

規模	名称	開催時期	会場	参加人数 (オンライン(外数))	海外オンライン 参加国数
全国	第47回日本マイクロサージャリー学会学術集会	R2年11月	北九州国際会議場	764人 (574人)	
	産業医科大学基礎研修会冬期集中講座	R2年12月	北九州国際会議場	1,734人	
	第43回日本美容外科学会総会	R3年2月	リーガロイヤルホテル小倉	542人 (354人)	
	AILCD International Conference on Low carbon City Design after Pndemic2021 of Asian Institute of Low Carbon Design 2021・AILCD International Competition Workshop 2021 "Re-thinking the HIBIKINO Campus 2001-2021" Kitakyushu (Japan)	R3年3月	北九州学術研究都市 北九州市立大学	350人 (215人)	3カ国
	言語処理学会 27 回年次大会(NLP2021)	R3年3月	北九州国際会議場	200人 (7,500人)	
	The 9th International Conference on Industrial Application Engineering (ICIAE2021)	R3年3月	北九州国際会議場	125人 (220人)	5カ国
九州 西日本	2020 第48回日本選手権九州予選大会	R2年7月	桃園球場 的場池球場 他	1,200人	
	九州支部第7回学術講演会・総会 併設事業「第8回中国・九州支部合同研究会」シニアから学ぶ技術講演会	R2年11月	九州工業大学 戸畑キャンパス	110人	
	第30回東アジアホープズ卓球大会日本代表選手選考会	R3年1月	北九州市立総合体育館	900人	

※会議規模については、現地参加者により判断した。

(2) 主な取り組み

○誘致営業

通常の誘致活動に加え、オンラインを利用した活動を行い、また関係機関との連携や人的ネットワークの維持にもオンラインを取り入れた。

コロナ禍においては、先行きが不透明で、特に国際会議は主催者等も開催地や開催方法の決定が困難な状況ではあるが、いくつかの案件が誘致に繋がった。

○スポーツ誘致

コロナ禍の中、積極的な誘致活動を行い、第38回全日本シニアバドミントン選手権大会、文部科学大臣杯第18回日本車椅子ハンドボール競技大会、第15回春季全日本小学生男子ソフトボール大会等、50件、延参加人員6.8万人のスポーツイベントを北九州市に誘致することができた。今後は昨今注目され競技人口が増えているeスポーツにも範囲を広げ、誘致活動を行っていく。

○グローバルMICEの推進強化

国際会議協会ICCAをはじめとした、これまでに培ってきた国内外の関係団体とのネットワークを活用しながら、国際会議誘致やオンラインMICE商談会への参加など積極的な事業展開に取り組んだ。

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により、JNTOが毎年開催している各種現地商談会が開催されなかったが、唯一オンラインで開催された「国際MICEエキスポ(オンラインIME2021)」に参加し、様々なキーパーソンや学会主催者に対して本市の魅力を積極的にPRを行った。

また、北九州市国際観光推進協議会が参加するオンライン・インバウンド商談会にも参加し、コロナ後を見据えたインセンティブツアー商品の造成と送客を働きかけた。

○ローカルホストとの連携強化

大学等との「コンベンション誘致・開催に関する連携協定」に基づき各大学の教授会でMICE説明会を開催し、連携強化を行った。また、新型コロナウイルスの影響により、毎年開催する「首都圏交流会」を中止としたが、その代替として、本市で過去にコンベンションを開催、あるいは継続案件を持つ会議主催者に対して、本市の助成金制度や支援制度の案内とともに地元の魅力ある産品を送り、本市でのMICE開催の魅力をPRした。

2 主催・共催事業

国際会議場等を活用し、幅広い年齢層を対象に各種イベントを企画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和2年度は中止、または誌上開催とした。

◆ イベント・大会等の企画、開催（主催・共催） ※（ ）内は令和元年度実績

事業名	開催期日	入場者数
小倉まちづくりミーティング泡盛ナイトinくら	中止	-人 (191人)
第27回北九州将棋フェスティバル	中止	-人 (837人)
第20回全国俳句大会in北九州	誌上開催	853人 (822人)

※俳句大会の入場者数は事前投句応募者数

Ⅲ 公1・収1：貸館利用者の誘致・営業強化

1 営業体制の強化

(1) リピーターの安定及び効率的稼働への取り組み

既存利用者の催事の延期や中止について、利用者のニーズに沿った日程の提案を行った。また、コロナ禍にあっても確実な開催が期待される試験案件や例年複数回の利用がある自動車会社の催事については、安心安全に開催できるようきめ細やかなサポートを行った。

(2) 新規利用者の開拓

テレビ局や音楽プロモーターとの連携を深め、新規利用の予約を受けていたが、新型コロナウイルスの影響により、中止となった。他方では、各種試験については、感染対策が施された広い会場のニーズが高まったことなどから、16件の新規展示会等が開催された。

(3) 主催者等への各種支援の実施

令和2年度は、新規及び大規模利用主催者に対して、集客広報や代理申請手続きなどの各種支援の実施を計画していたが、新型コロナウイルスによる施設の利用状況の変化に伴い、支援内容の重点を「安心・安全なイベント開催」に変更した。具体的な支援として、ドーム型サーモカメラやサーキュレータ等の感染対策機器の無料貸し出しや関係機関や他の催事から収集した感染防止対策に関する情報提供などを行った。

◆ 令和2年度 新規展示会・見本市等の誘致実績

催事名	催事名
佛所護念会周年事業 (R2年7月)	日本語能力試験 (R2年12月)
SHINRAI TALK 九州 (R2年9月)	第二種電気工事士下期技能試験 (R2年12月)
一級管工事施工管理技術検定試験 学科 (R2年9月)	おやつCS 2020 Winter Festival (カードゲーム) (R2年12月)
第三種電気主任技術者試験 (R2年9月)	第一種電気工事士技能試験 (R2年12月)
日中韓新人 MANGA 選手権 (R2年9月)	グレースギャベ展 in 小倉 (R2年12月)
保育士(後期)筆記試験 (R2年10月)	第106回薬剤師国家試験 (R3年2月)
二級建築施工管理技術検定学科 (R2年11月)	CareTEX 福岡 (福祉機器展 BtoB) (R3年2月)
秋季提案会代替え開催&やさしいメニュープレゼン (R2年11月)	TOEIC Listening&Reading 公開テスト (R3年3月)

2 「営業推進本部」の機能強化

コロナ禍において、施設利用に関する状況が逐一変化する中、これまで以上に職員間で意思疎通を図り、また施設稼働に関する最新情報の共有を徹底するなど、「営業推進本部」の機能強化に努めた。

集客にぎわいイベントの開催とミクニワールドスタジアム北九州との連携については、新型コロナウイルスの影響により中止となったが、次年度開催に向けた取り組みを継続した。

◆ 令和2年度 閑散期対策イベント等

催事名	会期	入場者数
プラレール博 in KITAKYUSHU	R2年7月22-26日	中止
いきものキングダム	R2年7月31日-8月30日	中止
トミカ博 in KITAKYUSHU	R3年1月8日-19日	中止

<参考> 令和2年度 北九州市のMICE開催実績

区分	件数	参加人数	経済波及効果(間接・雇用効果を含む)
会議・大会等	69件	17,165名	1,403百万円
見本市・展示会・イベント	5件	37,120名	2,627百万円
合計	74件	54,285名	4,030百万円

※開催実績の対象は、以下の2つの条件を満たすもの。ただし、展示即売など主に営業目的とするものは除く。

①北九州市MICE誘致推進本部事務局（北九州市産業経済局及び当協会）が誘致・開催支援・実施したもの。

②北九州市地域以上を参加規模とするもの。

※経済波及効果は、観光庁の「MICE開催による経済波及効果測定モデル」により算定。

Ⅳ 公1・収1：広報・宣伝、地域連携

1 広報、宣伝

ホームページでのイベント情報・施設紹介、協会主催事業やコンベンション誘致に関する情報の提供をおこなったほか、広報誌「催事案内」の発行を行い集客に活用した。また、北九州市の玄関口である北九州空港やJR小倉駅では、施設内にある電照広告看板やマルチビジョンを用いて施設PRを行った。

2 地域連携

小倉駅新幹線口エリアの地域振興団体と共同で、交流イベントや地域清掃活動等の実施、「こくらマップ」のMICE参加者等への配布等、地域の活性化・にぎわいづくりに取り組んだ。

また、JR主要駅に近接する施設の特徴を生かすため、JR九州・JR西日本と連携し、効果的な主催事業等のPRを行った。

V 公・収1：管理・運営

新型コロナの影響により、利用件数、施設稼働率、施設利用者数は前年度と比較すると全て大きく減少したが、国及び県のガイドラインを遵守しつつ、感染症拡大防止を念頭におき安心安全な施設運営に努めた。

1 お客様満足度の向上

(1) サービスの向上

利用者に対して、そのニーズを的確にくみ取り、丁寧な対応すること心掛けた。特に新型コロナ感染拡大防止の観点から、感染対策用機器の無料貸し出しや利用にかかる情報をホームページ上に適宜公開した。また、感染拡大防止を理由に会場をキャンセルした利用者に対しては、利用料金の返金を行うとともに、北九州国際会議場内の2Fレストランを利便性向上のため多目的交流ラウンジに再整備し、会場利用を補完するスペースとして運用を開始した。

ミクニワールドスタジアム北九州での試合やイベント開催時には、スタジアム来場者が展示場・会議場利用者に影響が及ばないよう、ギラヴァンツ北九州等の主催者・関係者と事前に会場周辺についての打ち合わせを行い、トラブル防止に努めた。

(2) 職員の資質・能力の向上

主に職場におけるQC活動を活発化するとともに、「国際会議場施設協議会」「全国展示場連絡協議会」において、施設のコロナ対策等、書面による意見交換を実施し、職員の資質・能力の向上を図った。

2 管理業務の効率化

国際会議場多目的交流ラウンジおよび駐車場進入口天井照明のLED化による電力使用量の低減や、メンテナンス等委託業務の内容の見直しなど、管理経費の削減に努めた。

3 災害甚大化に対応する防災体制の検討

大規模な災害発生等に備え、緊急時の対応体制、連絡体制を構築した。

9月に発生した大型台風では、北九州国際会議場のメイン看板が倒壊したことを受け、施設周辺の構築物・設備を緊急点検し、必要な改修を行った。

4 施設の改修等

施設の老朽化対策や利便性・安全性の向上のため、施設設備の改修更新等を行った。

*展示場本館：屋根防水改修工事、空調設備改修、大展示場救護室設備取替え、等

*展示場新館：貸出机入替え、備品倉庫内の棚卸し、等

*国際会議場：1F交流ラウンジの美観回復工事、感染拡大防止対策設備・備品導入
オンライン会議用機器導入、LAN回線更新、等

5 施設の稼働率等

◆西日本総合展示場本館の利用状況

区分	件数(件)	稼働日数(日)	稼働率(%)	入場者数(万人)
R2年度	22	119	34.9	8
R1年度	61	308	88.0	27
H30年度	64	299	86.9	24

◆西日本総合展示場新館の利用状況

区分	件数(件)	稼働日数(日)	稼働率(%)	入場者数(万人)
R2年度	88	161	46.1	12
R1年度	171	274	78.3	57
H30年度	193	309	86.6	56

◆北九州国際会議場の利用状況

区分	件数(件)	稼働日数(日)	稼働率(%)	入場者数(万人)
R2年度	338	226	61.9	2
R1年度	536	323	91.0	7
H30年度	539	334	96.0	8

6 指定管理

指定管理期間の2年目であった令和2年度は、新型コロナの感染拡大に伴う2度の緊急事態宣言発出による施設の休館・時短措置やイベント開催制限、利用者の開催自粛等があり、指定管理計画に掲げた目標(来場者数(展示場・会議場)96万人、コンベンション誘致件数250件など)の達成まで至らなかった(来場者数22万人、コンベンション誘致件数124件など)。

令和3年度についても、新型コロナの収束時期が見通せない中で目標達成は厳しい状況下にあるが、計画的・組織的な取組みを進める。

Ⅵ 公2：観光客の誘致及び滞在化の促進

新型コロナの感染拡大は、観光分野にも大きな影響を及ぼしたが、コロナ禍にあっても様々な支援事業やオンラインによる国内外へのPR活動等を継続して実施した。

1 観光客誘客事業・滞在化促進事業

北九州市及び観光関連企業で「北九州市国内観光客等誘致促進協議会」等を組織し、国内・海外において本市の観光資源や新しい観光情報等のPRを行った。その他、北九州市の緊急経済対策関連事業に係る助成金等の支給窓口業務を通じて、観光関連事業者への支援を行った。

【北九州市国内観光客等誘致促進協議会事業】

お城EXPO 2020（横浜・12月18日～20日）への展示出展を実施した。

また、日本新三大夜景都市を活用した夜景PRのため、夜景ARアプリや皿倉山夜景プロモーション映像の制作を行った。その他、ハローキティを活用した観光PRとして、市内にARフォトスポットを設置した。

【緊急経済対策関連事業】

新型コロナの感染拡大を受けて、緊急経済対策関連事業を実施した。

事業名	利用実績	事業名	利用実績
テレワーク推進北九州応援プラン	延べ16,700名	北九州市地域共通クーポン利用促進	6施設 15プラン 26,343件
テレワーク等推進プラン助成	延べ7,186名 ※1月末現在	北九州の魅力再発見キャンペーン	302,493名
北九州市宿泊モニターキャンペーン	延べ63,613名	北九州市医療・介護施設従事者宿泊支援	延べ1,761名
観光客誘致強化	16社 20商品 4,564名	地元の逸品販売支援事業	配送件数 18,929件 販売数 19,629点

【北九州市国際観光推進協議会事業】

オンラインを活用した事業を通じて、海外からの観光客の誘致を図った。

- ・海外向けリモート商談会（延べ8回参加）
- ・日韓交流おまつり2020 in Seoul オンライン（PR動画配信など）
- ・海外の旅行社の営業担当者を対象にしたWeb勉強会（台湾旅行社14社参加）

【北九州産業観光センター実行委員会事業】

市内外のイベントに出展し、産業観光PRを実施した。

- ・工場夜景サミット（YouTubeによるWeb開催）
- ・産業観光PR動画制作

2 修学旅行誘致事業

北九州市及び修学旅行関連企業と連携し、主要都市の旅行会社へのセールス活動を行った。

【訪問都市】

第1回	： 益田市, 浜田市, 大田市, 出雲市, 松江市	計20社（小・中学生対象）
第2回	： 松本市, 伊那市, 岐阜市	計11社（高校生対象）
第3回	： 岡山市, 高松市, 松山市, 今治市, 新居浜市, 大洲市, 八幡浜市, 広島市	計35社（小・中学生対象）
第4回	： 長崎市, 大村市, 佐世保市, 佐賀市	計18社（小・中学生対象）
第5回	： 津市, 四日市市, 草津市, 大津市, 姫路市	計17社（高校生対象）

Ⅶ 公2：観光都市北九州の広報宣伝と観光情報の収集・調査

企画広報宣伝・情報収集調査事業

機関誌・観光関連書籍の発行やホームページ等の運営により、広報宣伝と観光情報の収集・調査に努めた。

（1）機関誌の発行

季刊情報紙「誘 ing 北九州観光だより」の発行

春号(4月1日)、夏号(7月1日)、秋号(10月1日)、冬号(1月1日) 各7,000部

（2）ホームページ等の運営

コロナ禍にあったが、SNSやYouTubeを活用して国内外に向けて観光PRを行った。また、MICE誘致や観光客誘客の強化を図るため、「ぐるリッチ！北Q州」ホームページ内に「旅行会社・MICE主催者向けページ」を新設した。

① ぐるリッチ！北Q州	アクセス数	802,105件
② フェイスブック	いいね！件数	10,196件
③ Instagram	フォロワー数	9,662件
④ Twitter	フォロワー数	3,880件

（3）観光関連書籍の発行

北九州観光カレンダー 6,500部（11月1日発行）

Ⅷ 公2：観光に関する人材の育成及び啓発

1 百万にこここホスピタリティ運動

新型コロナの影響により、協賛金募集を見送ったため、予定していた各観光事業者の海外の観光客のおもてなし活動の取組紹介や、観光事業者のスキルアップに向けたセミナーの開催及び観光用マップの制作などの実施を見送った。

2 観光案内ボランティアの養成及び派遣

（1）観光案内ボランティア制度運営

例年、旅行会社等からの依頼による門司港レトロ地区等でのガイド活動や、イベント、祭りに合わせて設置した特設観光案内所でのガイド活動や、ガイドのレベル向上のため観光案内ボランティア研修会を開催しているが、令和2年度は新型コロナの影響により、ガイド活動の一時休止や研修会の中止を余儀なくされた。

① 旅行会社等からの依頼による門司港レトロ地区をはじめとするガイド活動

・ガイド件数	88件
・ガイド人数	861名
・活動者数	129名

② イベント、祭りにあわせて設置した特設観光案内所でのガイド活動及び観光案内ボランティア研修会

- ・新型コロナの影響により、全て中止

（2）北九州観光市民大学

期 間 11月10日～3月25日 計10回 ※新型コロナの影響により1回中止
受講者数 17名（うち、北九州市観光案内ボランティア登録者8名）

Ⅹ 公2：特産品の紹介・宣伝

国際会議場多目的交流ラウンジ「Sea Lounge」に展示コーナーを新設し、会議打ち合わせや控室利用のイベント関係者に地場産品のPRを行った。また、オンライン会議主催者などに地場産品を取り揃えたパッケージ商品を開催記念品として提案するなどMICE事業と連携した新規顧客の創出を図った。

通信販売では、コロナ禍で苦境に立つ事業者と協力し「コロナ救済特設ページ」を設けて販促を実施した。

- (1) ホームページでの紹介、販売（オンラインショップ）等
- | | | |
|-------------------|------|------|
| ・北九州観光市場 | 発注件数 | 377件 |
| ・Yahoo!ショッピング | 発注件数 | 115件 |
| ・ふるさと北九州市応援寄附金返礼品 | 受注件数 | 959件 |

- (3) 大規模イベント会場での臨時売店設置（主なもの）

<市内>

- | | | | |
|------------------------|---|------------|------------|
| ・第42回西日本陶磁器フェスタ | ： | 9月18日～22日 | 西日本総合展示場 |
| ・第30回日本耳科学会総会・学術講演会 | ： | 11月12日～13日 | 西日本総合展示場 |
| ・第62回朝日新聞社杯競輪祭 | ： | 11月18日～23日 | 北九州メディアドーム |
| ・門司港駅グランドオープン2周年記念イベント | ： | 3月27日～28日 | 門司港駅 |

<市外>

- | | | | |
|--------------------|---|--------|--------------|
| ・かまいしラグビーメモリアルイベント | ： | 10月10日 | 釜石鶴住居復興スタジアム |
|--------------------|---|--------|--------------|

Ⅹ 公2・収2：観光に関する施設の管理運営

1 観光案内所運営業務（公益目的事業）

【北九州市観光案内所運営協議会】

北九州市、JR九州、西鉄バス北九州、北九州エアターミナルと北九州市観光案内所運営協議会を組織し、官民一体となり市内3箇所の観光案内所におけるサービス強化を図った。

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により観光客は激減したが、小倉駅観光案内所のリニューアルに向け、関係各署と連携しながら体制強化に取り組んだ。

- ・案内件数（ ）内は令和元年度実績
- | | | |
|--------------|---------|-----------|
| 北九州市総合観光案内所 | 19,784件 | (66,047件) |
| 門司港駅観光案内所 | 4,849件 | (22,531件) |
| 北九州空港総合観光案内所 | 5,833件 | (52,206件) |

【北九州産業観光センター】

北九州産業観光センター（北九州市、商工会議所、当協会）において、産業観光協力企業と工場見学等に関する調整を行うとともに、毎年産業観光ツアー及び工場夜景クルーズへのガイド・ナビゲーターの派遣等を行ったが、令和2年度は、新型コロナウイルスの影響により、視察やツアー等の多くが中止となった。

- ・参加状況（ ）内は令和元年度実績
- | | | | | |
|------------------------|----|------|------|---------|
| 産業観光視察 | 0件 | 0名 | (21件 | 522名) |
| 工場夜景ツアー（クルーズ、バス） | 1件 | 20名 | (10件 | 540名) |
| 工場夜景定期クルーズ（実施主体：関門汽船株） | 9件 | 231名 | (90件 | 3,673名) |

2 土産品・特産品売店の管理運営（収益目的事業）

門司港レトロ地区の主力のお土産センターとして「北九州おみやげ館」を運営している。令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言の発出により3度休業を行ったが、営業再開に際しては、ガイドラインに基づき、パーテーションや消毒液の設置、営業時間の短縮等の感染拡大防止対策を行った。また、緊急事態宣言解除後の「Go Toトラベル」実施期間は、地域共通クーポンを利用した買い物など特産品PR・販売促進を図った。

また、TOTOミュージアムショップの運営を受託しており、「北九州おみやげ館」同様の対応を取りつつ、産業観光と連携した土産品の紹介・販売を行った。

- (1) 土産品、特産品売店の運営
- ・北九州おみやげ館
 - ・TOTOミュージアムショップ
- (2) 門司港レトロ駐車場の管理運営
- ・利用台数（乗用車） 36,746台



北九州おみやげ館

3 小倉駅イベント広場等の管理運営（収益目的事業）

ーJAM広場、JAMビジョンー

JR小倉駅3階在来線改札口前のJAM広場について、イベントや観光展などへの貸し出しを行った。

また、同場所において、大型映像装置「JAMビジョン」で、市政情報・啓発CMや観光情報、広告CM等の放映を行った。特に新型コロナ関連の情報についても多く取り扱った。



JAM広場・JAMビジョン